

地震対策

避難場所で安心できる所は

絶対安全安心の場所はない

問 町の施設でどこが避難場所として最適な、避難場所として安心だと明言できる所を考えているか。

し尿処理場や溶融炉は安心できるか。

町内を停電にした状態の避難訓練は出来ないか。

伊方原子力発電の被災は、風向き次第では被災者になり得ると懸念されるが四国電力との安全協定は出来ないか。

答 松本 情報防災課長
あらゆる災害に対して絶対安全、安心という場所はないと考えている。

指定避難所は、それぞれの災害別に安全性の高い場所を指定しているが、災害が発生した場合は、使用する前に必ず目視による避難所の安全確認が必要となっている。

停電の訓練は現実的には、実施することは困難である。ただ、夜間の津波避難訓練は大変重要だと考えており、今年11月5日には、全町的な夜間避難訓練を計画している。

答 藤本 住民課長

黒潮町衛生センターは、平成10年に完成し、鉄筋コンクリート2階建て、地下1階建てで、新耐震基準に基づき建設され、標高約40mにあり、直接津波の被害を受けること

はない。

幡多クリーンセンターは平成14年に完成。鉄骨造りの建物で、この施設も新耐震基準に基づき建設をしている。約20mの高台にあり、津波の被害は直接受けない。ただ国道や町道の被害状況により影響は出る。

伊方原子力発電の件は、現在のところ、原子力安全協定を四国電力と直接締結をすることは検討していない。

医療対策

町民の心配を どう捉えるか

予算を含めて 総合的に検討

問 佐賀の診療所は5月中旬より新たな診療体制で開業されたが、町民の心配はなくなったであろうか。

子育て中の親や家族、独居世帯や高齢者の心配はないだろうか。町はどのように捉えているのか。住民の心配をもう一度酌み上げる。そういう姿勢で対応をすべきだ。

答 矢野 地域住民課長

住民からいろんな要望が挙がると思うが、それらのことは予算も含めて総合的に検討させて頂きたい。

24時間体制の訪問看護ステーションが、すぐに実現す

るということではないが、今後、医療法人祥星会によって、段階を経て実現していただけるものと思っている。

【その他の質問】

※環境整備について
※工事発注について



佐賀診療所・町民の診療要望は強い